

他領域の「ご意見を聴く会」における御意見への対応(案)
(エネルギー利用に関するもの)

1. 「原子力委員会政策評価部会 ご意見を聴く会(テーマ:原子力安全行政に係る施策の評価について)(2006年6月開催)」参加募集時に頂いた御意見

No.	御意見	対応(案)
No. 2 0	<p>原子力エネルギー利用について危険なので使わない方が良いと言う人々もおりますが、人間の生活にとって便利さと危険は表裏一体であります。</p> <p>例えば人類が火を使い出したときも山火事という危険があり、又、ガソリンも引火性があり危険ですが、何百万台という車がこの危険物を搭載して走っておりますが、ほとんど無事故で車は人生に欠くことのできないものとなっております。原子力もいかに安全を保つかに人智を結集して対応していくことが大切だと思います。</p>	<p>第4章(4)において、電気事業者に対し、運転管理に係る技術基盤の整備について提言しています。</p>

2. 「原子力委員会政策評価部会 ご意見を聴く会(テーマ:原子力の平和利用の担保に係る施策の評価について)(2006年11月開催)」参加募集時に頂いた御意見

No.	御意見	対応(案)
No. 13	<p>エネルギー自給率の極めて低いわが国が、エネルギー資源の確保、環境保全、経済発展という3つの条件を同時に満たしつつ進んでいくためには、原子力発電と核燃料サイクル政策をどう進めるかが、極めて重要な要素となる。国は各界の意見を聴きながら原子力政策大綱を策定したとはいえ、実態としては、国民的なコンセンサスを得たというには程遠い状況にあると考える。国は、国家の基本にかかわるこの問題について、もっと国民の全面に出てエネルギー・環境・経済の観点から原子力政策への理解を得るため、さらに一層の情報提供と議論の場を設けることに努力を傾注していただきたい。</p>	<p>第4章(1)において、国の広聴・広報活動は、地域社会との相互理解に達することを目指す観点から絶えず改良・改善を行いつつ推進されるべきとし提言しています。</p>

<p>No. 1 9 (一部)</p>	<p>北朝鮮核兵器開発に関連して、日本でも核兵器開発を唱える論が政府内でもでてきたが、これは平和利用に限定された核開発路線が変更となり国際社会から非難される事にならないか。</p> <p><u>耐震基準が厳しくなると、最近の地震発生の多さから地元の不安感が払拭されず、プルサーマル計画導入についても消極的な首長の判断になりやすいのではないか。これに対して国は基本姿勢だけでなく、個別電力会社と県、自治体三者と具体的導入問題を協議し、指導力を発揮すべきではないか。</u></p>	<p>第3章3.2.4に、国は、原子力発電所立地地域でプルサーマルシンポジウムや住民説明会などを実施しており、電気事業者の理解活動とあいまって、過半の電気事業者のプルサーマル計画に前進が見られることを記載しています。</p>
<p>No. 29</p>	<p>地球温暖化(CO2排出)の防止のためには、原子力利用は不可欠。</p> <p>原子力に反対の人が、まともな代替エネルギー源を提案するのを未だ聞いたことがない。</p>	<p>第3章3.1(2)に、近年、地球温暖化対策に原子力発電が貢献することが評価されるようになったことなどから、国際的に原子力発電に対する期待が高まっていることを記載しています。</p>